

熊谷市と気仙沼市の絆深く 9回目の「花のお嫁入り」100本

熊谷市の市民団体「気仙沼に熊谷桜を植える会」(横田透会長)による9回目の「熊谷桜(くまがいざくら)のお嫁入り」が4年ぶりの対面式で10月21日～22日に宮城県気仙沼市で行われました。両市は2011年東日本大震災以降、交流が続いています。

1回目の平成26年は88本、2回目93本、3回目115本、4回目110本、5回目112本、6回目124本、7回目70本、8回目112本、9回目100本の熊谷桜を参加。これまでの9年間で合計924本の熊谷桜が被災した防災集団移転地やかもめ通り商店街、直宗公の居城跡である気仙沼市松川の赤岩城跡、尾崎神社などへ植樹され、古谷館八幡神社の熊谷りえ子さんや神社関係者皆さまが「花のお嫁入りマップ」を作成しています。



気仙沼市は熊谷次郎直実公(後の蓮生)の孫の熊谷平三直宗が城を築いた地です。熊谷家は16代、約400年に亘り東北の地を統治。今も「熊谷(くまがい)姓」の住民が多く暮らしています。

今回は直宗公補任(ぶにん)800年にあたり、菩提寺である宝鏡寺で「赤岩城初代城主宝鏡寺開基熊谷直宗公・800回大遠忌奉修」が執り行われ、両市から約60名が参列しました。

同寺は曹洞宗の出緒ある古刹で、小高い山の中腹に直実公と直宗公の墓石があります。31世菊地秀道老師による法要後に参列者らは墓参りをしました。

同寺総代長であり赤岩城・月館・中館整備保存委員会会長の熊谷博児さんは、「熊谷市民の皆様には物資両面にわたり善意を寄せてもらい、復興への希望の灯りを頂いた。保存会も心をひとつにして城跡の整備や熊谷桜の手入れをしていきたい。後世の人に伝えていきたい」と熱く語りました。

今回持参した熊谷桜は100本。熊谷市の「桜ファンクラブ」メンバーを中心に年2回「芽つぎ」や「接ぎ木」で苗を増やし育ててきています。

事前に苗を希望した気仙沼市民30人に手渡し、標高約350メートルの中館城跡、宝鏡寺関係者などに70本。今回は初めて南三陸町の北の恋人岬の管理者佐藤良夫さんに5本贈呈しました。

横田会長は、「あったかいエネルギーを頂いて帰るのは私たち。来年は10年目の節目の千本桜となります。多くの皆様にこの交流を体験してほしい」と目頭を熱くしていました。

(実行委員広報担当 栗原和江)



今回の参加者の声

柴崎 雅代さん

初回から参加

気仙沼の風景が変わっちゃった、記憶が風化するの早いなのというのが実感。南三陸は最初にボランティアで行ったところでした。一戸建の並ぶ集団移転地に移植した熊谷桜に因んで「桜ヶ丘団地」と地名が付いたのは素晴らしい。

黒澤 茂さん

古くからの妻沼スタッフ

北の恋人岬公園を一人で立ち上げた佐藤良夫さんの心意気は、まさに妻沼と同じ「縁結び」の心。南三陸でのプログラムを設定してくれた方も熊谷出身でこちらご縁を感じ入りました。『三陸新報』の県議選結果をみましたが、たくさんの女性の当選は家庭からの発信、平和を守るという意味合いで素晴らしい。

重竹 淳一さん

スタッフ・「直実大好き会」当時より製作担当

私たちの活動は、舞台の基礎作り。両市民が様々な演目で共演できることを夢見ます。

成澤 美枝子さん

参加二回目

「千葉誠」での植樹式、祭太鼓で歓待してくれた中の幼児の姿、懇親会で同席した漁業関係者のナマの被災体験、南三陸町役場女性職員避難勧告の現場の遺構、過去の植樹プレートに、過去・現在・未来を、改めて心に焼き付けました。

井上 信男さん

スタッフ・桜ファンクラブ副会長

今年は熊谷で「さくらシンポジウム」開催。気仙沼の皆さんと交流できました。何度も現地に通り自分なりのボランティアを続けています。年内、この後も二回、当地を訪問予定です。

来春の「千本桜」に向け知恵を絞っています。4月14・15日、どうぞお楽しみに。

小川美穂子 文責

はな じゅう
株式会社 花十
〒360-0043
埼玉県熊谷市星川1-8
Tel/Fax
048-527-8178

Bee's Happy
濃厚 はちみつ ソフト
久保島店 ☎048-533-0038
熊谷市久保島945-1
宮町店 ☎048-522-5015
熊谷市宮町2-140-2
ふしゅうようほうえん
武州養蜂園
http://www.bushu38.com

経営コンサルティング 相続・贈与・起業支援
龍前税理士事務所
所在 熊谷市桜木町1-18橋本第一ビル5F
TEL 048-579-5143
● 謙虚な姿勢と真心のこもった業務の提供を致します。
● 専門性と人間性向上への努力を怠りません。
● 信頼される人間関係の構築に情熱を注ぎます。